

# 平成30年度和歌山県学習到達度調査結果の概要と今後の取組について

海南市立第三中学校

平成30年10月17日（水）に中学校1・2年生を対象に実施された「和歌山県学習到達度調査」における調査と本校生徒の調査結果の概要は以下のとおりとなっています。今後は、本調査結果を踏まえ、学習指導の一層の工夫・改善を行うとともに、一人ひとりの生徒の学力向上に向けた取組をさらに進めていきます。

## I 調査の概要（和歌山県学習到達度調査 実施要領から）

### 1 調査の目的

児童生徒の学力の定着状況をきめ細かく把握し、指導方法の工夫・改善に役立てるとともに、個に応じた指導を充実させ、学習指導要領に示された当該学年の学習内容の定着を図る。

### 2 調査対象生徒

中学校第1・2学年

### 3 調査事項

- (1) 調査教科 国語・数学・理科（2学年）
- (2) 出題範囲 原則として当該学年の9月末までの学習内容
- (3) 出題内容 基礎的・基本的な知識・技能を問う問題と、身に付けた知識・技能を活用する力を問う問題
- (4) 出題形式 選択式、短答式及び記述式の問題

### 4 調査実施時期

平成30年10月17日（水）

### 5 調査結果等の取扱いについての配慮事項

調査結果については、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることに留意することが必要です。また、今回示した数値等は、調査結果のすべてを表すものではありません。

## II 教科に関する調査の結果

### 1 国語

評価の観点別	対象設問数 (問)		平均正答率 (%)					
			本校		海南市		和歌山県	
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
話す・聞く能力	3	2	72.6	60.8	75.9	73.1	72.1	72.2
書く能力	2	3	66.4	53.6	66.8	51.0	61.4	46.7
読む能力	8	7	38.0	58.1	40.7	58.8	39.6	56.6
言語についての知識・理解・技能	7	8	62.0	62.5	64.7	61.9	60.2	57.2

【県の平均正答率を5%以上上回っている設問数（20問中）】 1年：4問 2年：6問

【県の平均正答率を10%以上上回っている設問の出題趣旨（本校平均正答率；県との差）】

△1年：小学校で学習した漢字を書くことができる。(89.6%；+12.7%)

△2年：小学校で学習した漢字を書くことができる。(61.7%；+26.1%)

事実や意見が相手に効果的に伝わるように文章を構成し、説明や具体例を加えて書くことができる。

(53.3%；+18.9%)

【県の平均正答率を5%以上下回っている設問数（20問中）】 1年：2問 2年：2問

【県の平均正答率を10%以上下回っている設問の出題趣旨（本校平均正答率；県との差）】

▼1年：登場人物の心情に注意して読み、内容理解に役立てることができる。(39.5%；-10.9%)

▼2年：わかりやすく伝えるために、資料をどう取り上げるかを考えることができる。(65.0%；-16.8%)

### 2 数学

評価の観点別	対象設問数 (問)		平均正答率 (%)					
			本校		海南市		和歌山県	
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
数学的な見方や考え方	8	6	54.3	34.9	59.2	47.3	55.7	41.6
数学的な技能	17	16	69.2	54.7	72.5	66.3	67.1	60.6
数量や図形などについての知識・理解	5	8	77.9	63.3	72.6	67.9	66.0	62.1

【県の平均正答率を5%以上上回っている設問数（30問中）】 1年：11問 2年：2問

【県の平均正答率を10%以上上回っている設問の出題趣旨（本校平均正答率；県との差）】

△1年：自然数の意味を理解している。(86.6%；+23.4%)

一元一次方程式を解く場面において、等式の性質の使い方について理解している。(85.1%；+14.1%)

一元一次方程式を解くことができる。(69.7% ; +11.5%)

比の値を求めることができる。(82.1% ; +11.4%)

【県の平均正答率を5%以上下回っている設問数(30問中)】 1年:5問 2年:15問

【県の平均正答率を10%以上下回っている設問の出題趣旨(本校平均正答率; 県との差)】

▼2年:分配法則を含む簡単な整式の計算ができる。(63.3% ; -13.6%)

ハンドボール投げの記録から、中央値を求めることができる。(48.3% ; -13.5%)

具体的な事象において、連立二元一次方程式の解について考察し、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる。(48.3% ; -10.8%)

反比例の関係を式で表わしたのものとして正しいものを選ぶことができる。(53.3% ; -10.3%)

### 3 理科(2年)

評価の観点別	対象設問数 (問)	平均正答率(%)		
		本校	海南市	和歌山県
科学的な思考・表現	9	54.9	56.4	48.4
観察・実験の技能	3	50.0	44.2	42.3
自然現象についての知識・理解	8	67.8	62.2	56.9

【県の平均正答率を5%以上上回っている設問数(20問中)】 14問

【県の平均正答率を15%以上上回っている設問の出題趣旨(本校平均正答率; 県との差)】

△ 不要な物質を排出器官に運ぶ血液中の液体成分が血しょうであるという知識を身に付けている。(60.0% ; +23.3%)

メスリンダの測定方法を正しく理解し、示された目盛りを正確に読みとることができる。(75.0% ; +21.4%)

調査地点の位置関係と柱状図から判断した地層の重なりをもとに、地層の広がりやを推測することができる。(分析・解釈)  
(41.7% ; +15.6%)

両方の電極に集まった気体の体積から、酸素が発生したと考えられる電極を選ぶことができる。(80.0% ; +15.0%)

【県の平均正答率を5%以上下回っている設問数(20問中)】 2問

【県の平均正答率を5%以上下回っている設問の出題趣旨(本校平均正答率; 県との差)】

▼ 実験の結果を分析して解釈し、光合成に必要な条件について、その原因と考えられる複数の要因を関連付けて説明することができる。(分析・解釈) (41.7% ; -7.5%)

弦の張りの強さが音の高さに関係していることを確かめる実験の組み合わせを選ぶことができる。(51.7% ; -6.6%)

### III 今後の取組について

全国学力・学習状況調査の結果分析により進めている学習指導の工夫改善等に加え、本調査で結果分析を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能の習得とその活用を図る学習活動を重視するとともに、「45分+まとめ・振り返り5分」という「和歌山の授業づくり基礎・基本の3か条」の構成を授業スタイルとして、本校の「学力向上推進プラン(中期計画)」の着実な推進を図る。